

海陽町第3期教育振興計画策定委員会（第1回）

議事録

日 時：令和3年1月8日（金） 13：00～14：10

場 所：海南文化館 大会議室

出席者：委員10名中9名出席（別紙名簿参照）

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川主査
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子、佐々木

【会議次第】

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員長の選出
- 4 議事
 - (1) 計画策定スケジュールについて
 - (2) 計画素案について
 - (3) その他
- 5 閉会

【議事進行】

委員の互選による委員長及び副委員長の選任が行われ、皆津委員が委員長に、佐藤委員が副委員長に選任された。

■議事1 計画策定スケジュールについて

・事務局から説明

（委員長）

ただ今の事務局の説明につきまして、ご意見ご質問等ございましたら、よろしくお願ひします。

※異議なし

（委員長）

意見がないようですので、次の議事に移ります。

■議事2 計画素案について

・事務局から説明

(委員長)

これにつきまして、ご意見ご質問等ございましたら、よろしくをお願いします。

(佐藤委員)

P.38 に学校図書館の充実という欄がございます。図書館を担当していて、現在子どもの読書活動推進計画を作成しています。その中で、学校と図書館あるいは文化館等との連携が重要ではないかと考えています。移動図書館車も回っています。「学校と図書館が連携を図っていく」というのがあればありがたいです。図書館と連携して、子どもの読書活動の推進を図っていくという項目があればいいかなと思います。

(委員長)

現在も移動図書館車が回っていただいています。事務局、よろしいでしょうか。

(事務局)

承知しました。

(委員長)

よろしくをお願いします。他にございませんでしょうか。

(乃一委員)

計画は、このように抽象的に書いていかざるを得ないと思いますが、実際にこれを中身のあつものにしていくためには、具体的にどのように進めていくのですか。

(事務局)

具体的には、町の各年度で予算がついた事業を推進していくことになります。

(乃一委員)

私は、社会教育を大事に考えています。今、いじめをはじめ、日本でこのようなことが起こるのかということが、毎日のように起こっています。こういうものは、やはり学校教育ではなく、家庭教育が原点である社会教育が担っていくべきものと思っています。旧海部町は、全国でも最も自殺者が少ない町です。そこでは、お互い助け合うというのが当たり前です。一つ家族の町、海部町という環境が整っていて、よその子どもも自分の子どもと同じような

形で配慮しています。実際、海陽町ならではの特徴のある、誇れる教育が計画の中に示されていてもいいと思います。例えば、海陽町ではみんなが英語で話ができるとか、気持ちのいい声かけやあいさつができるといった、何か特徴のある教育が欲しいと思っています。そういうものが積み重なっていけば、いじめというものは減ってくると思います。基本的なことではありますが、必要であると思っています。私自身は、優しい気持ちの子どもたちが多いという町づくりを社会教育のなかで実現させたいと考えています。

(委員長)

2つのことがあったと思います。1つは、具体的に町民にわかりやすいものをどう進めていくか。もう1つは、町としての特色ある教育計画をどう示して進めていくかということです。こういうことに気をつけて、丁寧な説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

特に社会教育や生涯学習の分野についてご意見をいただきましたので、その点を踏まえて、重点目標の書き方などを検討していきます。

海陽町の特徴については、もう少し説明を加えさせてください。町は令和2年度、学校において1人1台のタブレットの整備が早く終わっています。それを活かして、町にいても優れた指導者とオンラインでつないで教育を受けられる環境があります。ICTを使って様々な高度な教育を受けやすい環境にあるため、わざわざ都会へ行く必要もありません。また、幼稚園、小学校、中学校、そして高校まで連携していて、一つの町域で学ぶ環境がしっかりと備わっています。それぞれの学校間の話し合いも、既になされています。高校においては、魅力化事業によって、県外からも入学者が増えています。海陽町に居ながらも、異なる生活スタイルをもった方たちとコミュニケーションをとったり意見交換することができ、成長の機会が十分に得られています。英語についても、誰もが日常会話程度の英会話ができるまちづくりを目指しているという点は、最大の特徴になっています。このように、整備も実行もなされていることの中から特徴のあるものをしっかりと伸ばしていき、そして、気持ちのよい声かけやあいさつ運動などの取組については、今後この計画にしっかりと分かりやすく取り入れていきたいと思っています。

(教育長)

この計画は、大きな指針と目標になります。これをもとに、具体的な施策におろしていき、事務事業の中に盛り込んでいきます。町民の皆さんに、重点的な取組や町の教育の特徴が十分に伝わるように、広報などを使って発信していきます。

(及一委員)

私は、子どもが自殺をするというような社会を残念に思っています。だからこそ、海陽町

は違うんだ、本当にいい子どもに育てていくんだということを、計画に表して欲しいと願います。

(委員長)

ありがとうございました。命が一番です。他にご意見ありませんか。

(片山委員)

2点あります。令和5年度から中学校の部活動を社会体育に移していくという方針が文部科学省から出ています。このような点を、教員が担う業務としてP.48の教職員の働き方改革に盛り込むのか、P.47のスポーツ振興で取り上げるのかは分かりませんが、当計画の期間を考えると、大きな課題になるのではないかと思います。具体的に書くべきことなのかどうかもわかりませんが、気になった点です。それから、もう1つは人権教育についてです。徳島県が取り組んでいくべき14の課題の中で、同和問題・部落差別の解消が人権問題の大きな柱として挙げられています。しかし、P.45の人権教育では男女共同参画社会がメインになっていて、少し違和感があります。人権教育の柱として、同和問題の解消に取り組んでいくという文言があれば、すっと理解できると思います。

(教育長)

地域部活動が令和5年度から実施ということですが、海陽町内ではまったく受け皿がない状況です。厳しい課題になりますが、重要なことですので、計画に盛り込む方向で考えたいと思います。触れられていない同和問題は、人権教育の根幹をなすものですので、協議をして盛り込んでいこうと思います。

(委員長)

P.45に盛り込んでいくということですね。よろしくお願いします。他にございませんでしょうか。

(佐藤委員)

P.51の計画の進行管理に関してですが、ここではPDCAサイクルで回していくこととなっています。さきほどお話しした子どもの読書活動推進計画もPDCAサイクルをとり入れています。途中でいろいろと問題が出てきたときに、PDCAではうまくいかないことに気がつきました。最近、企業などでは、PDCAに代わるものとして、OODAループ(ウーダ・ループ)やPDRサイクルなどを使いはじめたという事例を聞いたことがあります。計画をきっちり決めても、途中で問題が起きた時に、柔軟に対応できる仕組みにしてもいいのではないかと思います。今でしたら、コロナで状況も変わってきますので、柔軟に対応できるサイクルについても、検討していただければありがたいかなと思います。

(委員長)

PDCA は非常に有名ですが、途中で柔軟に手直しができるような仕組みも検討してもらいたいと思います。

(教育長)

事務事業評価は、PDCA サイクルのもとで行われています。

(教育次長)

総合戦略も PDCA サイクルを採用していますが、内容については柔軟に対応できるように考えられています。KPI にあわせて実施の状況を見直したりなど、進捗管理をしています。教育委員会でも、柔軟な対応ができるようにしたいと考えています。

(教育長)

より実行性の高いものにしていきたいと思います。

(委員長)

他にありませんか。

(藤川委員)

P. 36、37 ページですが、高校にカッコがついていますが、何か意味や理由があるのでしょうか。

(事務局)

高校は、町の所管でないことは重々承知しています。ただ、都会に負けない教育ということと、海陽町に住み続けながら教育を受けられるというメッセージを受け取って、高校までが一貫してこの地域で充実していることを伝えたいために、あえてカッコをつけました。

(藤川委員)

私は、できればカッコをとって頂ければありがたいです。海部高校は、海陽町に根差した高校です。一貫と思っています。

(委員長)

私も同感です。みなさん、どうでしょうか。カッコをとるということでいかがでしょうか。

※異議なし

(委員長)

カッコをとるということでお願いします。1校しかないですし、ずっとつながっていますから。

(藤川委員)

あと、じん“ざい”の漢字ですが、「財」と「材」が混在しています。意図があれば別に構いませんが、「財」の方が多いので、揃えた方がいいのかなと思います。もう1点、数値目標についてですが、書けないものもあるとは思いますが、はっきり示すことができれば分かりやすいと思います。すべてが努力目標のようになっていますので、もし指標を示すことができれば、町民も分かりやすいのかなと思います。あと、私もあいさつが大事と思っています。海陽町の子どもたちは確かによくあいさつができていますので、そのあたりを大きく伸ばすことができれば、町全体の雰囲気をもっと明るくなり、活性化につながるのではないかなと思います。ですので、あいさつという言葉が計画のどこかに入れて頂ければ私もうれしいですし、それを伝統にできれば町がもっとよくなるのかなと思います。

(教育長)

すべてのことについて成果目標や指標を出すことは難しいですが、重点的な施策については出していこうと事務局でも話をしているところです。事務事業評価をするうえで、客観的な評価ができるように進めていこうと考えています。

(事務局)

じん“ざい”の漢字につきましては、できましたら、徳島県の教育振興にならって「財」を使いたいと思います。

(委員長)

他にございませんでしょうか。それでは、いろいろ貴重なご意見をありがとうございました。無いようでしたら、委員会として、この計画素案を承認したいと思います。よろしいでしょうか。

※異議なし

(委員長)

ありがとうございました。異議がないようですので、この計画素案を承認することといたします。

■議事3 その他

委員の皆様から何かご意見等ございましたらお願いします。ございませんでしょうか。無いようですので、事務局から次回開催予定について説明をお願いします。

(事務局)

次回の策定委員会は、2月5日金曜日の13時で予定しております。詳細なことは、1月中旬までにご連絡いたしますので、よろしくお願いします。

(委員長)

また文書を出しますので、よろしくお願いします。以上をもちまして、本日の委員会を終了いたします。ご協力、ありがとうございました。

閉会